

## 皆で育てよう、憧れの臨床検査技師！

岩谷 良則\*

## はじめに

今年度の日本臨床検査医学会学術集会が名古屋で開催され、「多様化する臨床検査技師の大学院教育」をテーマに、日本臨床検査学教育学会との合同シンポジウムが開催された。その中で、大学院博士前期(修士)課程の定員割れが多く、多くの大学で問題となっていることが紹介され驚いた。大阪大学ではほとんどの学生が大学院に進学する。大阪大学だからだとも言われたが、私たちは大学院教育が臨床検査技師を真のプロフェッショナルにするために最も大切なことと考え、1期生が大学に

入学してきた最初のオリエンテーションのときから、学生に大学院進学を勧めてきた。その効果の方が大きいと考え、私たちの臨床検査技師の大学・大学院教育についての考え方や大学院進学のおすすめ方についてご紹介したい。

I. 今、医師・薬剤師以外の医療職に  
求められていること

## 1. 大学教育

すべての医療職の学歴を大学卒にして等しくすることは、すべての医療職が対等の関係で行うチーム医療(主体的で問題解決能力のある医療職が

表 21世紀の医療と臨床検査技師

## 21世紀の医療

- 少子高齢化の進展、医療の高度化・複雑化、慢性疾患の増加、患者志向への転換  
→ 医療費の高騰、リスクの増大
- チーム医療〔総合的質管理(TQM)に基づく医療〕が不可欠
- チーム医療では、すべての医療職の意識改革と力量の向上、および対等の関係で自由に議論できる場(知識創造の場)の形成が必須条件
- 目標を共有し、互いに信頼し、対等の関係で議論して連携・協働できる、主体的で問題解決能力のある医療人の育成がポイント

## 臨床検査技師

- 大学・大学院教育は必須(チーム医療と専門性の確立に必須)
- 検査技術だけではなく、検査診断学の修得が今後の飛躍の鍵
- 臨床検査システムの最適化と医療効率の最大化が最重要課題
- 臨床検査学(診断科学)と高度先進医療の研究・開発・実践が専門領域
- 21世紀の医療の要、憧れの医療職

\*大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻医療技術科学分野生体情報科学講座／大阪大学医学部 保健学科 検査技術科学専攻病態生体情報学 iwatani@sahs.med.osaka-u.ac.jp

対等の関係で議論し連携・協働して行う総合的質管理(total quality management: TQM)に基づく医療)の大前提である。医療における TQM の実践は、医療費が高騰し高度化・複雑化する 21 世紀の医療における最重要課題である(表)。

## 2. 大学院教育

すべての医療職は自らの専門領域の学問を担うことができるようになって初めて真のプロフェッショナルになれる。他の理系の学部と同様に、半数以上が大学院に進学し大学・企業・医療機関に就職して研究開発に従事し、今まで医師等の他の職種が担ってきた自らの学問領域の中心的な担い手になる必要がある。

## II. 日本の臨床検査技師の特徴

### 1. 検体検査だけでなく生体検査も実施可能

欧米を含む世界の多くの国の臨床検査技師は検体検査しか実施できない。しかし日本の臨床検査技師は、検体検査だけではなく、生体検査(生理機能検査や画像検査)も実施できる。その教育範囲は限りなく医師に近く無限の可能性を秘めている。

### 2. 専門学校(2・3年制教育)からスタート

アジアを含む世界の多くの国の臨床検査技師教育は大学教育からスタートしている。米国では70年も前に大学教育でスタートした。日本の場合は、医師も薬剤師も専門学校から始まり大学教育へ移行しているが、薬剤師はすべての専門学校を極めて短期間に大学教育へ移行させた。時代の流れと要求を把握し、教え子の将来を考えれば、大学教育への移行は私たち臨床検査に関わるものの重大な責務であり、全員が協力し、真摯に前向きに努力すべき課題である。

## III. 魅力ある職種、臨床検査技師

### 1. 人気抜群、米国の臨床検査技師

米国では、環境、収入、将来展望、肉体的負荷、安全性、ストレスについての評価を総合して毎年250職種をランキングしているが、臨床検査技師は常に上位1-2割(16-36位)に位置している。米国では検体検査しか実施できないのにかなり上

位である。大学教育にさえなれば、生体検査も実施できる日本の臨床検査技師はもっと人気のある職種になることはまちがいない。さらに米国では、修士、博士と学歴を高め、また認定資格を取得して専門性を高めることにより、医師と同等のコンサルティング業務も可能になる。そのためにも大学・大学院教育および高度専門職教育は大切である。

### 2. 21世紀の医療「予防医療」の担い手

先進国では国民が健康で長生きでき、医療費抑制にも効果のある予防医療に力を入れ始めた。予防医療は確実な発症予知や早期診断ができて初めて成り立つ医療である。そして、これを可能にするのが、優れた臨床検査法や検査診断法の研究開発を行う臨床検査学である。今まで医師や薬剤師らが担ってきたこの学問領域は、これからは臨床検査技師が担い、自らの学問領域として大きく発展させていかなければならない。そのためには、多くの学生を大学院に進学させ、優れた研究者として育てることが重要である。

## IV. 臨床検査学の担い手を育てよう!

### 1. 大学院進学は当たり前

私は、保健学科に1期生が入学した最初のオリエンテーションのときから、上記内容を新入生に話し、夢を持って勉学に励むように指導してきた。そして同じ内容を1年次後期、2年次、3年次と繰り返し話している。また、◎現在の大学は私たちの世代の高校と同じ位置づけで、理系の学生は大学院に進学するのが当たり前の時代になっていること、そして、◎博士号がないと大学の教員にはなれず、また近い将来は大学病院等の基幹病院の技師長にもなれないこと、◎修士号がないと企業で研究開発職には就けず多くは営業職になること、◎修士でも大学病院や国公立病院には問題なく就職でき、大学病院では修士以上の臨床検査技師を望むところが増えていることを告げ、必ず進学するように勧めている。他の教員も大学院教育の重要性を唱え、また研究の楽しさを話して進学を勧める。その結果、大阪大学では、学部生の4分の3が大学院に進学している。

## 2. 臨床検査学は我らが専門領域

臨床検査学は極めて魅力的な学問である。ECG、電気泳動、RIA、PCR 等がノーベル賞を受賞したように、臨床検査の基本技術はノーベル賞の対象になるものが多い。また予防医療はどんな優れた治療法にも勝る。とても魅力的な領域なので、医師、薬剤師や他の理系の大学院を修了した研究開発者が非常に多い。しかし、臨床検査技師教育が大学・大学院教育になった以上は、この分野を我らが専門領域とし、大学・企業では基礎研究を、そして医療機関では臨床研究を行って臨床検査学の発展に貢献できる人材を一人でも多く育てる必要がある。

最後に、臨床検査技師教育施設がすべて大学になり、臨床検査技師の半数以上が大学院に進学し、多くの臨床検査技師が、臨床検査の日常業務だけではなく、医療機関や大学・企業で研究・開発を行うようになれば、臨床検査技師は、単に臨床検査の分野だけではなく、医療の様々な分野で活躍できる極めてステータスの高い魅力ある医療職になるだろう。そして、少なくとも 20 年以内には、高校生の憧れの職種になると確信している。

### 文 献

- 1) 岩谷良則. 21 世紀の医療の要：臨床検査技師－その課題と展望－. 臨床病理 2008; 56: 915-23.